

2017年 美術講座

「フィレンツェのサンタ・クローチェ教会大礼拝堂壁画修復」

講師：金沢大学 名誉教授 宮下孝晴氏

3月3日、会場はイタリア好きの美術愛好家の熱気に包まれました。

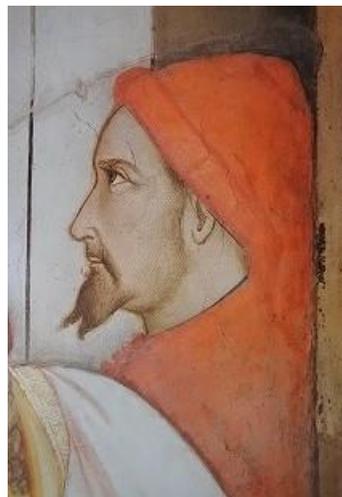
宮下氏の壮大なプロジェクトの発端は1999年。テレビ番組で講師としてフレスコ壁画を紹介したことでした。番組を見た篤志家が、イタリアの壁画修復と保存に2億円を投じたい、と申し出たのです。信じられない幸運。問題はイタリア全土に多数点在する劣化の進むフレスコ画のどれを選ぶのか。

熟慮の末、寄付者の意思を反映でき一定期間に成果を上げられるサンタ・クローチェ教会の壁画連作『聖十字架物語』*（アーニョロ・ガッディ作）の修復を決断。フレスコ画の総面積は820㎡。イタリアでも最大級のプロジェクトはサンタ・クローチェ教会と、氏が在職する金沢大学と、氏が信頼する恩師らのいるフィレンツェ修復研究所とで行われました。

2004年、修復は数か月間に及ぶ建物と壁画の徹底調査から始まり、傷み具合に応じて熟練の技と最新技術を尽くし2011年に完成。宮下氏は国際プロジェクトを仕切る喜びと難しさ、繊細で複雑なフレスコ画修復の様子をユーモアを交えて紹介されました。

*『聖十字架物語』：キリストが磔刑にされた十字架の木にまつわる物語は、旧約聖書のエデンの園からはじまり7世紀の東ローマ皇帝ヘラクリウスにまで及ぶ。ヤコポ・ダ・ヴァラジネ（1230年頃～98年）が編纂した聖人伝説集の『黄金伝説』に収められている。

サンタ・クローチェ教会壁画の一部



左：
Agnolo Gaddi,
La regina Elena

右：
Agnolo Gaddi,
自画像